

令和6年（2024年）度行政評価シート【個表】

令和 6 年 6 月 21 日

評価対象事業		評価者	中央図書館長 栗原章郎	
教育-53	市史編纂事業	☒ 自治事務	主管課	中央図書館
		☐ 法定受託事務	関連課	総務課
総合計画上の位置付け	分野	4-(5) 生涯学習	施策の方針	4-(5)-①生涯学習環境の整備・充実

1 事業の目的

対象	市民等
意図	市史の編纂及び公開をするため。
効果	歴史的資料の活用を図る。

2 令和5年(2023年)度を実施した事業の概要

・歴史的公文書の選別を行った。 ・近代史資料収蔵庫の資料整理及び目録作成を行った。 ・今後の市史のあり方について検討するため、必要な体制整備について関係課と協議を進め、方向性を定めた。	
--	--

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和5年度	令和6年度	達成度
				指標(実績値/目標値)	指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)	予算額(千円)	
01	市史編纂事業	歴史的公文書の選別 (消耗品費、印刷製本費)	—	/		
				22 / 99	129	
		財源 内訳	国県支出金	/		
			地方債	/		
			その他特定財源	/		
			一般財源	22 / 99	129	
			事業費の合計(千円)	22 / 99	129	
			人件費(千円)	5,918	12,632	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	0.2	0.2	0.2	0.4	1.2	
会計年度任用職員	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、 目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、 構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	市史編纂事業	歴史的史料の保存整理については、数値目標の設定はなじまないため、指標設定はしない。	市の歴史を記録保存する市史編纂事業の基礎資料となる公文書の整理保存に寄与しており、実施事業として妥当である。	・公文書選別の試行を10年間継続しているが、今後の適切な保管場所の確保と公開に向けての仕組みづくりが求められる。 ・具体的な市史編纂事務に向けた体制整備の必要がある。

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-3 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施 △-2 市民等と協働して実施する事業はない
		協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	☒ 拡充 ☐ 改善・変更 ☐ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止・廃止
令和5年(2023年)3月3日再開の鎌倉市議会2月定例会において、陳情第41号「鎌倉市制100周年記念事業として『新 鎌倉市史』の編さんを求める陳情」が採択され、中央図書館において措置することとなるため、今後の市史編纂事業の具体的な内容と措置すべき予算項目、体制を検討提案し協議を進めていく。	

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名	鎌倉市							
他市実績								

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	
--------------------------	--